

1. 開拓伝道であること
2. 教会を建てあげること
3. 聖書信仰に立つ教団・教派との協力

■巻頭言■

「仕事に取りかかれ」



KDK委員
大田原キリスト教会
牧師 大橋 富男

「しかし今、ゼルバベルよ、強くあれ。一主のことば—エホツァダクの子、大祭司ヨシュアよ、強くあれ。この国のすべての民よ、強くあれ。一主のことば—仕事に取りかかれ。わたしがあなたがたとともにいるからだ。一万軍の主のことば」(ハガイ書 2:4)

新年度、私どもの教会に与えられたみことばです。バビロン捕囚から帰還してエルサレムの神殿再建工事を始めたものの、敵からの攻撃と度重なる困難のため16年間も工事を中断していた総督ゼルバベルと大祭司ヨシュア、そしてユダのすべての民に対して、主は「強くあれ」、「強くあれ」、「強くあれ」と励まし、「仕事に取りかかれ」と語られました。それはかつての栄光に輝くソロモンの神殿に比べたら無に等しいものでした。それでも、主のことばに従うなら、主はこの宮を栄光で満たすと約束されたのです。その結果、彼らはその霊を奮い立たせられて仕事に取りかかり、この4年後のB.C.516年に工事を完成させます。大切なのは、主のみことばに従って信仰の一步を踏み出すことです。そうすれば、主がその業を成し遂げてくださいます。

私はこのみことばを受け取り、私たちの3つの教会が今年取り組みたい4つの仕事として、新年礼拝で語らせていただきました。それは①ビジョン2025(新教会開拓)の実現に向けての取り組み、②そのために牧師を招聘する(大田原、さくら)という取り組みで、③リーダー養成に向けて信徒聖書

学校(教会内神学校)をスタートしていく取り組み、④新会堂建設に向けて(那須)の取り組みです。すると不思議な主の導きによって、わずか2か月の間にこの4つの取り組みが大きく前進しました。新教会開拓に向けての取り組みは2027年4月より宇都宮市東部で開拓することが決まっていますが、その前に那須塩原市にも賃貸物件が与えられ、これまで大田原で行われていた英語礼拝が独立して教会を開拓するように導かれました。また、大田原とさくらの教会にフルタイムの牧師が与えられるように祈っていましたが、不思議な神様の導きによってどちらの教会にも与えられ、4月から新たな歩みを始めていくことになりました。実は、私たち夫婦は体力的(健康的)に限界を感じていたので働き人が与えられることを最優先に祈っていましたが、それが短期間に応えられたのです。

また、信徒聖書学校も準備が整いこの4月から15名の聖徒が参加して始まるように導かれました。それだけではありません。新年に入ってからすぐにある姉妹から連絡があり、那須の新会堂建設のために150坪の土地をささげたいとの申し出があったのです。私たちはそれを神様からの賜物と受け止め、新会堂建設に向けて具体的に取り組んでいくことになりました。

信じられません。まさに「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」(ゼカリヤ 4:6)とあるとおりです。神わざとしか思えません。主は私たちが想像していたことよりもはるかに大きなことを用意しておられたのです。

それは教会開拓においても言えることではないでしょうか。自分にできるかどうかではなく主のみこころを求めてアンテナをあげ一歩前進するなら、主は必ず道を開いてくださいます。「強くあれ。雄々しくあれ。」と語られる万軍の主のことばに励まされ、信仰によってその一步を踏み出していきたいものです。



目次

- 1P・・・巻頭言：大橋富男 (KDK委員)
- 2P・・・開拓者の近況：大喜多、中山、瓜生
- 3P・・・新受給者紹介(入江)・セミナー案内
- 4P・・・OBだより(関根)、事務局お知らせ



国内開拓伝道会 (KDK)

発行：2026年4月1日
発行：会長 嵐時雄
WEB：<http://kdk.asia>
振替：00140-6-57493

開拓者の近況

■保守バプテスト同盟：恵泉キリスト教会

仙南チャペル 大喜多義也・満智子

主の御名を賛美いたします。皆様のお祈りとご支援に感謝いたします。この3月で東日本大震災から15年が過ぎ、私たちの宣教の働きが始まってからは14年が経ちました。震災被災地で生まれた教会として開拓当初から現在に至るまで多くの方の祈りと支援に支えられ、何より神様ご自身のお働きによって建てられた教会であることを思い返し、改めてこの地域の人々に寄り添い共に歩む思いを強められています。

昨年度は私たち夫妻と比較的年齢の近いクリスチャン夫婦が教会に加えられ、家族で教会に集うことの力強さを感じた一年でした。キッズプログラムでも未信者の方が親子で参加するケースが何度もあり、その中から一人のお母さんとの学びも始まっています。今年度はそのような家族・有機的な交わりをより持ち、その交わりにまだ信仰の外にいる方々をお迎えすることが私たちの願いです。魂の救いのため、教会の成長のため、祈りに覚えていただけましたら幸いです。



■日本同盟基督教団 鹿児島いずみ教会

瓜生和彦・園子

教会全体で祈り続けてきました新会堂取得の道がついに開かれました。昨年末から今年の年始に、新会堂の掃除と引っ越し作業を教会員総動員で行い、今年の最初の礼拝を新会堂でおささげする事が出来ました。

3月9日の献堂式には、所属する日本同盟基督教団の九州宣教区の諸教会から、又、鹿児島県内諸教会の先生方がお祝いに駆けつけて下さり、感謝と喜び溢れる献堂式となりました。ここに至るまでの道のりは、決して平坦なものではなく、教会全体の信仰と一致が試される過程でしたが、信仰を持って一歩踏み出した時に、主がヨルダン川を堰き止めてくださる御業を教会全体で体験する事が出来ました。



■イエス・キリストの群れ：福岡シャインチャーチ 中山有太・あゆみ

ハワイからYWAMの宣教チームが来てくださり、駅前で一緒にアウトリーチをしました。彼らに提案した伝道方法は、駅前で「フリーハグ」というプラカードを持ってもらい、ハグを求める人にハグをするというシンプルな方法でした。そうすると多くの若者たち、年配の方々がハグをしに彼らの元へと来ていました。（異性とはしないように気をつけていました。）その中で教会案内のトラクトを渡したり、翌日に予定していた伝道礼拝の案内もできました。

そしてその翌日に行われた伝道礼拝にアウトリーチで出会った2人の未信者の男性が来られ、礼拝の中で1の方が信仰の決心をされました。「収穫は多い」ということを町に出て行くことで体験させられる時でした。これからも継続的にアウトリーチをしていきたいと思われています。

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主にご自分の収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」（マタイの福音書9章37,38節

KDKの皆さまのお祈りと御支援に心よりの感謝と御礼申し上げます。新会堂が主の宣教のために用いられますよう、続けて御加禱よろしくお祈りいたします。



新・受給者紹介



日本同盟基督教団
佐賀バイブルチャーチ

牧師 入江 喜久雄

私は埼玉県の母教会である志木新座めぐみ教会へ神学校を卒業し1984年に赴任しました。その時、KDKの祈りと経済的支援を受け、さらにセミナーに出席して様々な励ましを頂きました。

あれから早いもので約40年が経ち、佐賀市へ再び教会開拓に遣わされ現在に至っております。きっかけは教団から佐賀開拓の打診でした。私は主に祈り1週間後の礼拝説教のみ言葉「だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て(命令形)、自分の十字架を負って、わたしに従いなさい(命令形)。自分のいのちを救おうと思うものはそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者は、それを救うのです。」(マルコ8:34)が与えられ、2022年4月に佐賀開拓を決断し教団へ伝えました。その日の説教は以下の通りでした。「人々の目にさらされて死刑の道具十字架をかついで歩まれたキリストのように自分を捨てキリストとともに人目にさらして生きることです。すべて他の人々への明確な証し、自分中心ではなくキリスト中心に、自分の十字架とはキリストと親密に生きるガラテヤ2:20です。旅に例えられます。

①自分に別れを言う。一瞬一瞬自分を肉、罪の性質を喜ばせるのを捨て、

②荷物を持つ。十字架を持つ。自己愛を瞬間、瞬間捨てて十字架を負って歩まれたキリストを見つ

めて歩みます。

③続く旅。継続して復活の主と共に生きるのです。』マルコ8:34の「失う」とは10:29『捨て』る決断で、マルコ8:35は『わたしと福音のためにいのちを失う者(捨てる者)は、それを救うのです』となります。人格の中心は決断です。」と会衆に語ると同時に自分に語ったみ言葉でした。福岡に留まりたいという私の思いを主は砕いてくださり、群れを主にゆだねることとしました。

佐賀開拓は67歳の私、妻と91歳の義母と共に3人で始まりました。ビル1階のテナントを借りて礼拝、祈祷会を開始し、様々な伝道を行って来ました。特に「弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしるしをもって、確かなものとされた。」マルコ16:20を握っています。教会堂中心から出て行って地域中心に「いたるところで」人を建物よりも福音に連れて行くのを目指して進めています。収穫のために、み言葉と祈りに立つ働き人と救われて主の弟子となる人が多く起こされるようにお祈り下されば幸いです。



■今年度のKDK開拓伝道セミナー

2026年9月、四国エリア限定で開催予定です。本セミナーでは、地域に根ざした宣教と教会形成を実践的に学びます。

開催時期：2026年9月 開催地域：四国（※四国内限定開催）

主催：KDK詳細情報：👉 <https://kdk.asia/>

■これまでの地方セミナー

仙台、沖縄と出前出張セミナーを開催してきました。各地方の状況に合わせて、①開拓の進め方②複数教会ネットワークによる牧会の進め方③地域・文脈に即したミニストリーの実践事例④教会実践事例など、実際的な講座を企画実施してきました。

地域での開催をご希望の方は、WEBサイトより、ぜひお問い合わせ、ご相談ください。



城山キリスト教会

牧師 関根 弘興

1982年4月、神奈川県小田原で、KDKから三年間の支援を受け、開拓伝道をスタートしました。26歳の春のことでした。しかし、自分で思い描いた光景とは違い、現実は何をやっても人がなかなか集まりませんでした。誰も座っていない椅子を眺めながら、途方に暮れ、もう辞めようかと何度も思ったこともありました。

そんな開拓3年目の時でした。KDKの創設者であるプール先生がアメリカから来日し、小田原まで来てくださったのです。来日の目的は支援している若い牧師達を励ますためでした。私が改札口で先生を出迎えるために待っていると、すぐに私の方に向かって来て「オー、パスター・セキネ。会えてうれしい！」と満面の笑みを浮かべ、力強くハグしてくれたのです。まわりには大勢の人がいるのに、どうしてはじめて会った私をすぐに見分けることができたのだらうと思いましたが、すぐにその理由がわかりました。プール先生は、当時支援していた10名ほ

どの開拓伝道者たちの写真と名前の載っているアルバムをいつも見ながら、毎日欠かさず祈ってくれていたからでした。

その後、先生を囲み小さな集まりを持ちました。その中でプール先生が賛美してくれたのです。それが冒頭のみことば「He has done everything well」という賛美でした。なかなかうまくいかない現実の中でもがいていた私に「イエス様のなさることは、みなすばらしい」と語ってくれたのです。開拓伝道は時に孤独を感じる場合があります。しかし、このようにたくさんの支えと励ましと祈り中で、この働きが進められているのだ、と鮮明に心に刻まれるひとときとなりました。

あれから40年以上が経ちました。その間、多くの方々が教会に加えられ、新しい会堂が建ち、宗教法人格も取得し、今は後任の牧師も与えられました。様々なことがあります、振り返る度に「主のなさることをみなすばらしい」と思わされています。KDKの働きを心から感謝しています。



< 献金者名 > 2025年12月～2026年2月分 (50音順敬称略)

○個人

竹田広志、杉本信

○教会・団体

あいの里学園通りキリスト教会、旭川神愛キリスト教会、美しが丘グリーンチャペル、栄光キリスト教会、勝田台キリスト教会、木場深川キリスト教会、下北沢聖書教会、城山キリスト教、鳥栖曾根崎キリスト教会、日本長老教会武蔵中会、玉川上水キリスト教会、拝島バプテスト教会

開拓サポート申請及び受給資格

1. 教会形成を目指す開拓伝道であること
2. 福音的な教団教派の協力のもとでなされる開拓伝道であること
3. 開拓期再開拓を含む)の教会であること

支援年数及び給付額 (月額)

| | |
|--------------|-------------|
| 1年目・120,000円 | 5年目・60,000円 |
| 2年目・105,000円 | 6年目・45,000円 |
| 3年目・90,000円 | 7年目・30,000円 |
| 4年目・75,000円 | (7年目で終了) |

*2027年度開始分の申請書提出期限は、2026年6月20日です(必着)。書類の提出をもって正式な申込みとし、期日を過ぎたものは受け付けていません。

2027年サポート受給者募集 (申請手続き)

KDKは、左記のように、2027年4月サポート開始分の開拓サポートの受付を行います。必ず申請用紙を事務局にご請求の上、KDK所定の申請書類を提出してください。

お問い合わせ先

国内開拓伝道会事務局 岸尾 光
〒352-0011

埼玉県新座市野火止4丁目8-28
新座志木バプテスト教会

☎ 090-2567-0457

✉ nsbc@church.ne.jp

WEB <https://kdk.asia>

